

整理番号 01211136

発送番号 350372

発送日 平成14年10月22日 1 / 4

拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願2000-163420
起案日 平成14年10月17日
特許庁審査官 土居 仁士 3251 5K00
特許出願人代理人 高橋 詔男(外 3名) 様
適用条文 第29条の2、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

理由A.

この出願は、発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条第4項に規定する要件を満たしていない。

記

備考：

(1) 請求項4に係る発明の詳細な説明について

発明の詳細な説明【0020】～【0023】及び図2には、同時に2個以上の逆拡散データフラグが出力されている場合の処理手順が記載されているが、まずステップA9及びステップA11にてあるシンボル(第1シンボル)についてのフィンガ処理回路101の逆拡散データが格納されて、ステップA13によりフィンガ処理回路101のスロットが終了していない場合、ステップA4に戻り逆拡散を行ない、ステップA8及びステップA11によりフィンガ処理回路102の逆拡散データを格納すると記載されている。

しかしながら、フィンガ処理回路101の逆拡散データの格納処理とフィンガ処理回路102の逆拡散データを格納処理との間にステップA4の逆拡散処理が行なわれると、フィンガ処理回路102の逆拡散データが格納される前に次のシンボル(第2シンボル)についての逆拡散が行なわれ、次のシンボルについての逆拡散データ出力フラグが出力されてしまうので、結局、次のシンボルについての逆拡散データの格納処理が行なわれてしまうことになり、ステップA8及びステップA11に進んであるシンボル(第1シンボル)についてフィンガ処理回路102の逆拡散データの格納処理を行なうことはできないと認められる。

したがって、この出願の発明の詳細な説明は、当業者が請求項4に係る発明を

実施することができる程度に明確かつ十分に記載されていない。

よって、この出願の発明の詳細な説明は、当業者が請求項4に係る発明を実施することができる程度に明確かつ十分に記載されていない。

なお、上記の指摘に対して、補正を行う際は新規事項の追加とならぬよう十分に注意の上、補正を行う際にはその補正が新規事項を追加していない根拠を意見書において明確にされたい。

理由B.

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

備考：

(2) 請求項1について

本願請求項1に係る発明の「複数シンボルの逆拡散データ」なる記載は、「複数のフィンガ処理回路における1シンボルの逆拡散データ」とも解釈できるために、具体的な技術的範囲が限定されておらず発明が不明瞭である。

(3) 請求項2及び請求項4について

本願請求項2に係る発明の「所定長単位」，「所定量」なる記載及び本願請求項4に係る発明の「所定長」なる記載は、いずれも具体的にどの長さに相当するのか不明瞭である。（「1シンボル長」なのか「複数シンボル長」なのか、それぞれ明確に特定できるように記載されたい。）

よって、請求項1，2，4に係る発明は明確でない。

なお、上記の指摘に対して、補正を行う際は新規事項の追加とならぬよう十分に注意の上、補正を行う際にはその補正が新規事項を追加していない根拠を意見書において明確にされたい。

理由C.

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に公開された下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者とは同一ではなく、またこの出願の時に於いて、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないため、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

記

(引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項：1～3

引用文献：1

備考：

引用文献1（請求項1及び発明の詳細な説明【0037】～【0050】及び図5，図6，図7）には、各経路の相関値をそれぞれ2タイムスロット分まとめて格納するメモリに上記相関値を順次書き込み、1タイムスロット分の相関値がメモリに格納されたときに、メモリ部が当該1タイムスロット分の相関値をまとめてRAKE部へ出力することが記載されており、本願の請求項1乃至3に係る発明は引用文献1に記載された発明と実質同一である。

請求項：4

引用文献：1

備考：

引用文献1（発明の詳細な説明【0046】及び図6）には、下位アドレスから上位アドレスに向かって、各シンボルについての相関値を経路1，経路2，経路3の順にメモリに順次格納することが記載されており、これは本願請求項4に係る発明の「各フィンガ処理回路の処理タイミングが同時であったとき、あらかじめ決められた優先順位に従いその逆拡散データを記憶回路に書き込むこと」に相当しており、本願の請求項4に係る発明は引用文献1に記載された発明と格別な差異がなく、実質同一であると認められる。

請求項：5

引用文献：1

備考：

本願請求項5に係る発明と引用文献1に記載された発明とを対比すると、本願請求項5に係る発明は「データを書き込むときに生成されるアドレスは、…（中略）…0、1の値を交互にとる変数によって決まる」のに対して、引用文献1記載の発明にはアドレスを決定するための0、1の値を交互にとる変数に関する記載がない点で、両者は相違しているものの、メモリを2つのバンクメモリに分けてデータブロックを各バンクに交互に格納することによりデータの書き込みと読み出しを同時に行うことは慣用手段にすぎず、この点に新たな効果は認められない。（例えば、特開平11-187342号公報【0045】，【0046】、特開平9-73781号公報【0064】，特開平8-194641号公報【請求項1】，特開平11-203196号公報【0083】～【0085】及び図9）

したがって、本願請求項5に係る発明は引用文献1に記載された発明と格別な差異がなく、実質同一であると認められる。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

発送番号 350372

発送日 平成14年10月22日 4 / 4

引用文献等一覧

1. 特開2001-345737号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC第7版 H04J 13/00 - 13/06
H04B 1/69 - 1/713

・先行技術文献 特開平11-331124号公報(数シンボルにわたるバスの遅延差が有る場合にFIFOから同一の相対読み出しアドレスにより各バスの受信シンボル読み出して位相ずれなく合成を行なう)

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部デジタル通信

審査官補 岡 裕之

TEL 03(3581)1101 内線(3555)

FAX 03(3501)0699